

山本ようすけ



緑たちかわニュース No.17 (市政レポート 2026年 新春号)

新しい年を迎え、記憶をたどり、未来を選ぶ旅へ

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は戦後 80 年という大きな節目の年でしたが、混迷の1年だったと感じます。年が改まっても、戦争や分断の現実が変わることはなく、不安や緊張を抱えた状況が続いています。そうした時代だからこそ、平和や人の営みが積み重ねられてきた歴史に目を向けることが、いまを生きる私たちにとって重要だと感じています。

過去を知り、現在を見つめ、未来を想う。その積み重ねを大切にしながら、市政の場においても一つひとつ丁寧に取り組んでまいります。



元旦はお雑煮
炊き出しからスタート！

祝 採択されました！

立川市 核兵器廃絶 平和都市宣言

2017年、122か国の賛成で「核兵器禁止条約」が採択されましたが、唯一の被爆国である日本はいまだ署名も批准もしておらず、残念でなりません。広島・長崎の記憶が薄れつつある今こそ、日本が率先して核廃絶の先頭に立つことには大きな意味があります。

立川市でも戦後 80 年の節目として「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。議会でも全会一致での採択。会派を超えて全会一致となったことは、大きな前進だと受け止めています。戦後 80 年を越えた今、核兵器のない世界を目指し、地域から声を上げ続けることの重要性を改めて感じています。

一般質問で取り上げました

戦後 80 年の今、立川からできること

立川はかつて軍事施設が集まる「軍都」として発展し、空襲被害を受け、戦後は米軍基地としても利用されるなど、戦争の歴史と切り離せない歩みを辿ってきました。戦後 80 年を迎えた今、戦争を直接経験した人の声をどう未来へ残していくかが問われています。私は、市として記録をどのように進めていくのかを質問しました。

市からは、従前の平和事業に加え、戦争体験者の講座を映像等で残し、後世に伝えていく取り組みを検討するとの答弁がありました。今後の取り組みに期待します。

歴史探訪コラム

「西国立駅」はなぜ西国立？(なぜ東立川じゃないの?)

市民の方と古地図を広げて立川の歴史を眺めていたら、思わぬ発見が。立川駅と西国立駅の間に、「東立川」という駅。西国立も東立川も南武線開通時に開設されましたが、東立川は 1944 年の南武鉄道の国有化で廃止。西国立だけが残りしました。東立川駅の跡地を訪れると、その一角がわずかに盛り上がりが見えました。地名や駅名には時代の記憶が隠れています。過去をたどると、いつもの風景の中にも新しい発見がありますね。



「最新既測立川町全圖」田宮測量社(昭和12年)